

かあると思ふ是を設くには現在の雑物税の一割位を(西陣全部)預立れば凡一ヶ年に三十萬圓位資金が出来るとして生糸商人が是を設置すれば意外に儲が出来ぬといふ理由で取引をしなくなるかも知れぬ其時は其預立金を抵當に他の銀行から資金を借入れて横濱から元糸を一旦さめてにして買入れ是を一般機業者に貸渡す様にすればよむさうすれば其利益全て社會的施設が相當に出来る

織友會だより

京都要陣は雑物の産地として國內は勿論海外まで冠絶たるは人の廣く知る處である。西陣は市の北部に位し其昔應仁の亂の節山名宗全が細川勝元に對陣するに初まる現時西陣に於ては機業家(自營業者)四千、貨織業者七千を數へ其従事員は實に五萬と稱せられて居る。歐洲大亂の平和をなすや思想の向上と共に労働者の自覺する者多く労働者自身の福利増進の爲め種々なる運動が熾になつて來た。我西陣に於ても時代に順應して大正八年九月月

織業者及び織工労働團體として西陣雑物上自助團たる西陣織友會が生れたのである。其當時は尤も労働運動の旺なる時代にして殊に普通選挙運動の如きは目覺しき活動をしたものであつた。

普通選挙運動参加

織友會にては大正八年十二月議會の開催當時よりして東西の各労働團體と一大普通選挙聯盟に加盟して大阪に於ける代表者會に出席し大いに氣勢を揚げ京都にては翌年の總選挙當時三條青年會館にて前後三回に涉つて一大演說會を開催し京都市部に於ける普通選挙成の議員候補者の當選の多きを見た。越へて大正九年の十二月に關東の普通選挙の労働團體及び關西の普通選挙労働團體と共に普通選挙及び米の不買同盟反對の運動に参加して大阪の中央公會堂に於て協議會を開き全國の農會に向つて抗議する處があつた又普通選挙に對する大正九年の最後の協議會を開いた。

向上運動

織友會にては労働者の地位の向上及び労働者の自覺を促す目的にて創立當時より引續き西陣に於ける各小學校の開放をなして啓蒙講演會を開催し其都度盛會を極めた。

- | 場所 | 及年 | 月 | 日 |
|-----------|------|-----|-----|
| 翔登校に於て | 大正八年 | 十月 | 二日 |
| 室町校に於て | 大正八年 | 十一月 | 二日 |
| 仁和校に於て | 大正八年 | 十二月 | 二日 |
| 翔登校に於て | 大正十年 | 一月 | 十九日 |
| 仁和校に於て | 大正十年 | 一月 | 二十日 |
| 正親校に於て | 大正十年 | 二月 | 二日 |
| 乾隆校に於て | 大正十年 | 三月 | 十九日 |
| 同業組合樓上に於て | 大正十年 | 七月 | 十五日 |
| 同業組合樓上に於て | 大正十年 | 九月 | 廿五日 |
| 勞資研究會を開く | 大正十年 | 十月 | 二十日 |

次いで財界に大變動起るや西陣の織物は悲況に陥り休機するに至りし其當時労働者の一權利として手當其他の要求をなすべく大講演會の開催を前

後三回なし横暴なる資本家の反省を促し大いに効果のなりしを覺へた。

事業概略

織友會にても追々事業の進歩に従つて種々なる事業をなす其一斑を示せば
共濟部 祝事、秘事、災害、失業、疾病等會員相互の共濟をなすは勿論一般社會に對しても共濟の途を講ず
教育部 毎月一回宛例會を開催し著名上の講演、會員相互の智識の交換をなす、圖書機關の設置、夜學等ありて職工徒弟の補習教育をなす
技術研究部 技術の競技會を開く事から各工場視察等をなして別に織機の精通せる技術家を置きて研究をなす
衛生部 會員各位の身體檢査をなして會員の健康を調査し體育の健全を圖る又醫師の特約等ありて會員の傷病の際には至便の方法を講ず
慰安部 運動會、園遊會、親睦會等の催